

4 課

7月25日

祈りの力 ——他者のための執り成し



安息日午後 7月18日

暗唱聖句

だから、互^{たがい}に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互^{たがい}のために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。(ヤコブ 5:16、口語訳)

だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします。(ヤコブ 5:16、新共同訳)

今週の聖句

黙示録 12:7~9、エフェソ 6:12、ヘブライ 7:25、エフェソ 1:15~21、
ダニエル 10:10~14、1ヨハネ 5:14~16

今週のテーマ

新約聖書時代の教会員たちは、祈りの必要を感じていました。

「祈りが終わると、一同の集まっていた場所が揺れ動き、皆、聖霊に満たされて、大胆に神の言葉を語りだした」(使徒 4:31)。注目してください。弟子たちは祈っていたのです。彼らは聖霊に満たされ、それから大胆に自信を持って神の言葉を語りました。

彼らの祈り、彼らが聖霊に満たされたこと、そして神の言葉を力強く宣べ伝えたことの間には、直接的つながりがありました。「彼ら〔弟子たち〕は自分たちのために祝福を求めたのではない。彼らは魂の救いという重荷を負っていた。弟子たちは、福音が世に宣べ伝えられなければならないことを悟って、キリストが約束された力を求めたのである」(『希望への光』1369ページ、『患難から栄光へ』上巻 31 ページ)。

私たちが神を尋ね求め、ほかの人のために執り成すとき、神は私たちの心の中で働いて私たちをみもとへ引き寄せ、み国のために彼らに接触する天来の知恵を与えてくださいます(ヤコ 1:5)。神はまた、私たちが見ることも理解することもできない方法で、彼らの生活に力強く働きかけ、彼らを見もとへ引き寄せくださるのです(1ヨハ 5:14~17)。

問1 黙示録 12：7～9、エフェソ 6：12、II コリント 10：4 を読み比べてください。執り成しの祈りに対する私たちの理解は、これらの聖句からどのような影響を受けますか。

聖書は、見える世界と見えない世界の間のカーテンを取り払います。善と悪の間、義の勢力と闇の勢力の間、キリストとサタンの間には、戦いがあります。この宇宙規模の戦いの中で、神は人間の自由を尊重されます。神は意志を操作したり、良心を強制したり、決してなさいません。神は聖霊を送って、人間に神の真理を明らかにされ（ヨハ 16：7、8）、天使たちはこの戦いに加わり、永遠のための影響を人々に与えています（ヘブ 1：14）。神はまた、摂理による出来事を人々の人生の中に用意し、彼らをみもとへ導かれます。

しかし、神が良心を強制なさることはありません。強制は神の国に反しています。強制と、神の統治の基礎である愛の原則とは、相容れません。祈りが重要なのは、ここにおいてです。私たちが祈る前から、神は人に接触するためのあらゆることをしておられますが、神の偉大な力を解き放つのは、私たちの祈りです。神は、ほかの人のために祈ることを選択する私たちの自由を尊重し、善と悪の争闘という観点から見れば、私たちが祈るときに（祈らなかったときよりも）ずっと多くのことがおできになるのです。

次の言葉をじっくり考えてみてください。「われわれがこのようにして求めなければ与えられないものが、信仰の祈りにこたえて、われわれにさずけられることが、神のご計画の一部である」（『希望への光』1853 ページ、『各時代の大争闘』下巻 270 ページ）。善と悪の大争闘の中で、祈りは変化をもたらします。キリストを知らないだれかのために私たちが祈るとき、その祈りは、神の祝福が彼らの人生に流れ込む管となります。神は、彼らのために祈るという私たちの選択を高く評価して、彼らのために一層力強く働いてくださるのです。

私たちは執り成しの祈りという主題を扱う際に、神の働きが完全には理解できないことを謙虚に認めるべきです。しかし、そのことのゆえに、祈りが私たち自身やほかの人たちにもたらす祝福を継続的に受けることをやめてはなりません。

神は、私たちが祈らないときよりも祈るときに、ずっと力強く働かれます。あなたはそのことをどう思いますか。なぜ私たちは祈りの働きが完全には理解できないとしても、ほかの人のために祈りなさいという聖書の勧告に従って祈るべきなのですか。

問2 ルカ 3：21、5：16、9：18 を読んでください。これらの聖句は、イエスの祈りの生活と働きの効果との関係について、どのようなことを教えていますか。

イエスの生活は、絶えず父なる神と交わる生活でした。メシアとしての働きを始める際にバプテスマをお受けになったとき、イエスは天の目的を達成するために神の力を祈り求められました。父なる神のみ心を行い、目の前の務めを果たすために、聖霊が彼に力を与えてくださいました。5000人に食事を与えたときも、重い皮膚病の人をいやしたときも、あるいは悪霊に取りつかれた人を解放したときも、イエスは、善と悪の戦いの中で、祈りが陰府（悪）の勢力を撃退する強力な武器であることを認めておられたのです。祈りは、私たちの無力さや弱さを神の全能の力に結びつける、天が定めた方法であり、私たち自身を神のもとへ引き上げる手段です。そしてその神だけが、私たちが祈っている人の心に触れることがおできになるのです。

問3 ルカ 22：31～34、ヘブライ 7：25 を読んでください。イエスはペトロに、もうすぐ彼が遭遇する試みに備えさせるため、どのような保証をお与えになりましたか。私たち1人ひとりが試みに遭うとき、イエスはどのような保証を与えてくださいますか。

効果的に魂を勝ち取る人は、祈りの人です。イエスは名指しでペトロのために祈られました。ペトロが最大の試みに遭うとき、彼のために祈っていると、イエスはペトロを安心させられました。サタンは、神の国を發展させる潜在的能力がペトロにあることを非常によくわかっており、キリスト教会におけるペトロの好ましい影響力を破壊するために最善を尽くそうと計画を立てました。しかし、ペトロが試みに遭うたびに、イエスは彼のために祈っておられ、その主の祈りは応えられたのです。救い主が私たちのためにも祈っておられることは、認識すべき、なんと感動的な現実でしょう。彼は、この執り成しの祈りの働きに加わり、ほかの人を名指しでみ座の前に引き上げるようにと、私たちを招いておられます。

私たちが粘り強く祈るのは、執り成している相手の心に触れることがまったく神頼みであると認めているからです。

あなたは今、だれのために祈っていますか。状況がいかに難しく思えても、あきらめないことはなぜ重要なのですか。

執り成しの祈りは、聖書に従った祈りです。パウロは、彼の伝道の働きを通して設立された諸教会の新しい改宗者たちのために祈りました。彼は、祈ったときに起きたことは、もし彼が祈らなければ起きなかったであろうと信じていました。パウロは愛する人たちから切り離されましたが、互いに祈り合うときに、心でつながれることを知っていたのです。

問4 エフェソ1:15~21を読み、パウロがエフェソの信徒のために神にお願いしたことを、下の余白に書き出してください。彼は神に、何を彼らに与えてください、と具体的に求めましたか。

エフェソの信徒のためのパウロの祈りは、注目に値します。パウロは、神が知恵と霊的な見分ける力を彼らに与え、神の真理で彼らの心を照らし、永遠の命という希望を与えてくださるようにと祈りました。パウロはまた、彼らが自分たちの生活の中で強く働く神の力を体験できるようにも祈っています。この神は非常に力強い方なので、イエスを死者の中から復活させられました。その出来事が、イエスによる永遠の命という希望の基礎なのです。パウロの祈りは、「受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか」を思い出させることで締めくくられています。エフェソのクリスチャンは、パウロが彼らのために祈っていること、何について祈っているのかを知って、心から励まされたにちがいません。

問5 フィリピ1:3~11を読み、パウロの祈りの調子に注目してください。もしあなたがフィリピ教会の教会員で、このような手紙をパウロから受け取り、彼があなたのために祈っていることだけでなく、祈りの内容まで伝えられたら、どう感じるでしょうか。なぜそう感じるのですか。手紙の言葉の中には、どのような約束がありますか。同時に、どのような勧告もありますか。

これらは、聖書の中でも最も励みになる言葉、勇気づけられる言葉であり、約束とともに、イエスを知ることによってもたらされる愛と知る力と見抜く力で満たされるようにという呼びかけであふれています。それらに満たされることで、私たちはみな、神が本来意図しておられる姿になることができます。

執り成しの祈りは、「大争闘」と呼ばれる善と悪の戦いにおける強力な武器です。この戦いがはっきり啓示されている一つの例は、ダニエル書10章の中にあります。

預言者エレミヤは、ユダヤ人が70年間バビロニア人に囚^{とら}われるであろうと預言しましたが、みなさんはそのことを思い出すでしょう。ダニエルの生涯の最後に、この預言の捕囚期間が終わろうとしていました。ダニエルは関心を持っていましたが、彼が目にしたエレミヤの言葉の成就の証拠は、ほんのわずかでした。同胞の民は、いまだに囚^{とら}われていたのです。

バビロンはメディアとペルシアによって倒されましたが、ユダヤ人は依然として捕囚の身でした。ダニエルは3週間にわたって断食し、祈りました。彼は同胞のために、熱心に執り成したのです。その3週間の最後に、輝く天使のような人が彼の前にあらわれました。

問6 ダニエル10：10～14を読んでください。ダニエルの祈りは、いつ聞かれましたか。なぜその祈りは、一時的に妨げられていたのですか。

これは興味深い箇所です。ここをきちんと理解するために、登場人物を特定しましょう。ペルシア王国の天使長とは、だれのことですか。もちろん、キュロスではありません。彼はペルシア帝国の王ですから……。「ペルシア王国の天使長（ペルシャの国の君）」という表現は、サタンをあらわしている可能性が高そうです。イエスは彼のことを、「この世の支配者（この世の君）」（ヨハ12：31）とか「世の支配者（この世の君）」（同14：30）と呼ばれました。パウロは、「この世を支配する者」（エフェ2：2）と彼を名づけています。もしペルシア王国の天使長がサタンをあらわすなら、ミカエルとは、だれのことでしょうか。ミカエルという言葉は、聖書の中で5回使われています（黙12：7、ユダ9、ダニ10：13、21、12：1）。これらの箇所を注意深く研究すると、ミカエル（「だれが神のようであるか」という意味）が、サタンと直接戦っている全天使の指揮官としてのイエスをあらわす言葉であるとわかります。キリストは、永遠に、かつ万物より前から存在し、全能であられる神のみ子です。全天使の指揮官としての彼の働きの一つは、サタンを打ち負かし、永遠に滅ぼすことなのです。

ダニエル10章はカーテンを開き、善と悪の戦いを明らかにしています。ダニエルが祈っていると、ミカエル、全能なるイエスが天から降り、陰府（悪）の勢力を撃退して下さるのです。私たちの目にはそれが見えませんが、イエスは私たちの執り成しの祈りにも応えようと働いておられます。彼は力強い救い主です。私たちの祈りで気づかれないものは、一つとしてありません。

あなた自身の人生の中で繰り広げられている大争闘という現実を、あなたはどのように考えていますか。私たちはこの戦いの現実から、どのような選択をすべきかということについて、何を学ばねばなりませんか。

聖書は祈りの具体性を強調しています。祈りは、魂の曖昧な望みではありません。それは、具体的な願いを神に伝えるものです。イエスはご自分の弟子たちのために、具体的に祈られました。使徒パウロは、エフェソの信徒、フィリピの信徒、コロサイの信徒たちのために、とても具体的に祈りました。また、彼の若い同僚であったテモテ、テトス、ヨハネ・マルコのためにも祈っています。

問7 サムエル記上 12：22～24、ヨブ記 16：21 を読んでください。これら二つの箇所には、どのような共通点がありますか。また、執り成しの祈りについて、どのようなことを教えていますか。

サムエルもヨブも、熱心に、心から、具体的に執り成すことが必要であると強調しています。サムエルの言葉は、極めて強いものです。「あなたたちのために祈ることをやめ、主に対して罪を犯すようなことは決してしない」(サム上 12：23) と、彼は叫んでいます。「人が友のためにとりなすように、その方に、私と神様との間に立っていただきたい」(ヨブ 16：21、リビングバイブル) というヨブの言葉からは、サムエルの祈りのこだまが聞こえてくるかのようです。キリストを知らない人のために神に嘆願することは、私たちの仕事なのです。

問8 Ⅰヨハネ 5：14～16 を読んでください。私たちがほかの人のために執り成すとき、どのようなことが起きますか。

ほかの人のために祈るとき、私たちは、神の恵みが彼らに注がれる管になります。神は、天のみ座から命の水を川のように、私たちを通じて彼らに注ぎ出してくださるのです。サタンの全軍は、熱心な執り成しの声に震えます。エレン・G・ホワイトは、次のような意味深長な言葉で祈りの力を表現しています——「サタンは、彼の強力な競争相手に人が哀願することに耐えられません。なぜなら、その方の力と威光の前では、彼は恐怖で震えてしまうからです。熱心な祈りの声を聞くと、サタンの全軍は身震います」(『教会への証』第1巻<分冊2> 140 ページ)。私たちは、失われた人間の魂を得るための戦いの中で、祈りによって神の力の源につながるのです。

マタイ 18：18、19 を読んでください。この箇所は、執り成しの祈りと、どのように関係していますか。また、主を知らない人の救いのためにほかの人と祈ることを、いかに励ましていますか。

私たちがほかの人のために祈るとき、神は、私たちとの約束を守り、人生を変えるための天のあらゆる助けを用いることで、神の力に対する私たちの信頼に答えてくださいます。私たちの祈りがみ座に昇るとき、天使たちは神の命令を受けてすぐに動き出すのです。「奉仕する天使たちは、生きた信仰をもって熱心にささげられるすべての祈りに答えるために、イエス・キリストの出される命令にすぐに従えるように、みそば近くに待機して……います」（『祈り』397ページ）。一つの祈りも失われず、一つの祈りも神によって忘れ去られることはありません。私たちにはそのような保証が与えられています。祈りは天で保管され、神が最適と思われる時と場所を選んで応えられます。「信仰の祈りは決して失われません。しかし、わたしたちが期待した特定のものが期待したとおりにいつも答えられると主張することは、推測にすぎません」（『教会への証』第1巻く分冊2 > 30ページ）。このことは、キリストを知らない伴侶、息子や娘、親戚、友人、同僚たちのために私たちが執り成すとき、なんと大きな励ましになることでしょう。心からの祈りは、一つとして失われることはありません。私たちが祈り求めたことに即答は与えられないかもしれませんが、神は、私たちが来世でしか知りえない方法で、彼らの心に働きかけておられるのです。

話し合いのための質問

- ① フィリピ1:19、コロサイ4:2、3、Ⅱテサロニケ3:1、2を読んでください。獄中であつたとき、フィリピの信徒の祈りによって、パウロはどのような確信を持っていましたか。パウロは自分のために、どのようなことを祈ってほしいとコロサイやテサロニケの信徒に求めましたか。これらの執り成しの祈りは、魂の獲得とどのようなつながりがありますか。
- ② 大争闘の現実と、それが私たちの生きる世界の大きな背景を成していることについて、じっくり考えてください。この戦いを知っていることは、祈りの重要性を自覚するうえで、いかなる助けとなりますか。確かに、イエスはこの戦いに勝利され、最終的に彼の側が勝つことを、私たちは知っています。しかしその間、祈り、神に忠実であり続けられるように全力を尽くし、ほかの人の救いのために働くことは、なぜ重要なのですか。
- ③ 執り成しの祈りの生活をもっと効果的に送るのに、何が妨げとなっていますか。祈りを必要とする人のためにもっと祈ることを避けたら、そのためにあなたはどのような言い訳を用いるでしょうか。